

東京農業大学稲花小学校

学校だより【2022年1月17日】第109号



始業式

1月11日(火)、農大稲花小の3学期がはじまりました。静かだった小学校の校舎に、子どもたちの元気な声が響きます。寒々しかった廊下や教室も、心なしか明るく、温度が上がったかのようです。子どもたちは会うなり、楽しかった冬休みの経験を次々に話してくれます。子どもたち同士の会話も弾んでいます。中には「そろそろ学校があった方がみんなに会えるからいいと思っていました」「アフタースクールですっと学校に来ていました」という子どももいて、ほほえましいものです。



校内テレビで行った始業式では、終業式で話した「えーっ」「いやだ」「できない」の言葉、あるいは言い訳やうそをついたりするというような「残念言葉」についてももう一度話をしました。「残念言葉」を言う子どもの顔は、残念な顔になってしまい、「残念言葉」を聞いた人は、残念な嫌な気持ちになるという話です。「ありがとう」「大丈夫だよ」「一緒にやろうよ」と元気のであるような「元気言葉」を言い、行動してほしいのです。また、新年の決意を忘れずに、それを守ってほしいことも伝えました。新年の決意は自分との約束です。学校の決まりも、自分と学校との約束です。マナーを守るといった社会との約束もあります。約束や決まりを守ることの大切さについても話をしました。どの子どもも、新しい気持ちで臨んだ3学期の始業式でしょう。短い3学期ですが、自分が守るべき約束についていつも忘れないようにしてほしいものです。

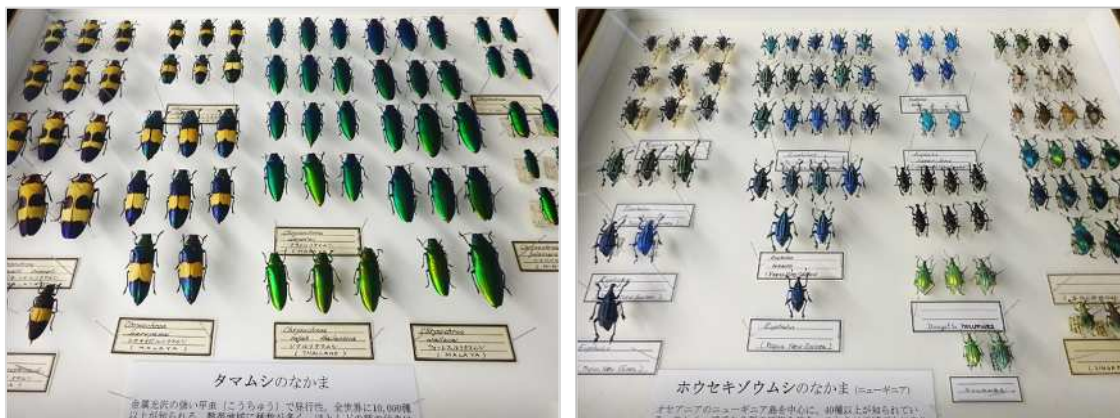
なお、教職員は子どもたちからの年賀状をうれしい気持ち、楽しい気持ちで読みました。年賀状への個別のお返事はいたしません。将来、卒業生からの年賀状には必ずお返ししようと密かに思っているところです。

輝く昆虫たち

一般財団法人進化生物学研究所から昆虫標本をお借りし、本校の児童のために毎月展示される昆虫標本。12月はゴキブリの仲間がテーマでした。12月11日(土)の入学者説明会でも興味を持って眺める幼い入学予定者が多



くいて頼もしく思ったところです。新年1月からは、タマムシの仲間が展示されています。タマムシは金属光沢をもつ甲虫の仲間です。全世界に1万種以上いるとのことですが、ニューギニアからの、その名も「ハウセキゾウムシ」など素晴らしい標本は、子どもたちの興味の幅を大きく広げてくれることでしょう。



将来できることを増やそう

食育教育をすすめる子ども雑誌「ちゃぐりん」第59巻1号では「将来できることを増やそう」というトピックスで、また、同第59巻2号では「みなさんの冒険を応援します」というトピックスで、インタビューをもとにした記事が掲載されました。本校の教育理念「冒険心の育成」についても紹介する機会となりました。農大稲花小の子どもたち一人一人の夢を叶えるためには、学校での生活や学び、そして友だちとの関係を大切に毎日過ごしてほしいと思っています。

ちゃぐりんURL：

<http://www.ienohikari.net/press/chagurin/backnumber/002524.php>

入試報告会

1月14日(金)、幼児教室や幼児教育関連企業を対象とした、2022年度入試報告会をオンラインで開催しました。昨年秋に行われた事前面接や入学試験を振り返り、本校の入学試験の特徴、本校ではどのような子どもや保護者を求めているかなどについて、幼児教育の専門家にご説明する機会となっています。1月21日(金)および22日(土)には今秋の入学試験を視野に、学校説明会(オンライン)も行われます。隣接する東京農業大学第一高等学校・中等部、また東京農業大学ではこれからが入試本番ですが、農大稲花小はすでに次年度の入試に向けてスタートしたといえます。農大稲花小の子どもたちは、4月に入学してくる新しい1年生の素敵なお手本になれるとよいですね。

校長 夏秋 啓子